

2024年度三重大学「学生海外チャレンジ応援事業」報告書

計画タイトル※申請書と同じタイトルを記載すること	採択コース
地雷による経済的影響と地域開発	Aコース

学生情報	
氏名	島田悠人
所属学部・研究科	人文学部
学年(出発時)	3年

渡航先情報	
渡航先	カンボジア
渡航先滞在期間	2025年2月19日 ~ 2025年3月5日
訪問先機関等	アキラ地雷博物館、Sokha Angkor Japanese English Schoolなど
訪問先機関での身分	訪問者、先生など

渡航概要と内容
<p>アキラ地雷博物館およびアンコールワット遺跡群の見学、ストリートチルドレンとの交流、フリースクールでの教育支援活動を行った。</p> <p>アキラ地雷博物館は、元クメール・ルージュの少年兵であり、現在は地雷除去活動家として知られるアキラ氏によって設立された施設である。博物館では、内戦時に埋設された地雷の展示などを通じて、戦争終結後もなお続く地雷被害の実態や、その社会的影響について学ぶことができた。</p> <p>アンコールワット遺跡群の見学では、古代クメール帝国の繁栄や独自の宗教観、歴史的背景、芸術文化について理解を深めた。世界的な観光資源としての価値だけでなく、遺跡が現代の社会や地域経済と密接に結びついている点についても考える機会となった。</p> <p>また、ストリートチルドレンとの交流を通じて、彼らが置かれている厳しい生活環境や、教育機会を確保することの困難さを実感した。社会構造が子どもたちの将来に大きな影響を及ぼしている現状を肌で感じ、支援の必要性について深く考えさせられた。</p> <p>さらに、フリースクールを訪問し、授業の見学および英語・日本語の授業を一部担当した。カンボジアの教育環境は、教室や教材、教員数などの面で十分とは言えない場合もあるが、フリースクールは地域の貧しい子どもたちに学びの場を提供している。実際に授業を担当し、生徒とコミュニケーションをとりながら理解度に応じた指導を行うことで、教育支援の実践的な経験を積むことができた。また、現地教員から教育事情について話を聞き、教育と社会課題との関係性について理解を深めた。</p>

渡航により達成できたこと
<p>カンボジアの歴史、文化、社会課題、教育環境について多角的に理解することができた。現地を実際に訪れ、人々と直接関わることで、書籍や講義だけでは得られない実践的な学びを得られた点が大きな成果である。</p> <p>アキラ地雷博物館の訪問を通じて、内戦の影響が現在も人々の生活に深く残っている現実を理解した。戦争が終結しても、地雷や不発弾による被害、被害者支援、社会復興といった課題が長年にわたり続いていることを具体的に学ぶことができた。</p> <p>アンコールワット遺跡群の見学では、カンボジアが有する豊かな歴史・文化・宗教的背景を理解するとともに、観光資源が現代社会や地域経済とどのように結びついているのかを考える機会となった。壮大な遺跡を前に、歴史を学ぶ意義を改めて認識した。</p> <p>ストリートチルドレンとの交流では、貧困や家庭環境といった社会構造が、子どもたちの教育機会や将来の選択肢に直結している現状を実感した。実際に子どもたちと接することで、教育支援やセーフティネットの重要性を具体的な課題として捉えることができた。</p> <p>フリースクールでの活動では、授業見学および英語・日本語の授業を担当した。ネイティブジャパニーズとして、日本語の発音や表現のニュアンスを伝えるとともに、英語の授業では生徒の理解度や反応に応じて説明方法を工夫する力を養った。また、現地教員からのフィードバックを受けながら授業内容を改善する経験を通じて、教育における柔軟性と対話の重要性を学んだ。</p> <p>加えて、渡航前後および現地で発生した予期せぬトラブルにより、当初の計画を変更せざるを得ない場面もあった。その中で、実行可能な活動を再検討し、目標を再設定しながら行動した経験を通じて、状況に応じて判断し対応する力を身につけることができた。この経験は、自分自身の行動力を大きく成長させる機会となった。</p>

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

社会課題は歴史、文化、経済などが複雑に絡み合っていることを強く実感した。内戦という過去の出来事が、現在の生活や教育環境にまで長期的な影響を及ぼしている現実から、戦争の影響は世代を超えて引き継がれることを学んだ。アンコールワット遺跡群の見学では、カンボジアの豊かな歴史と文化に圧倒されると同時に、観光資源が国の経済を支える重要な役割を果たしていることを理解した。過去の文明が現在の人々の生活と結びついている様子を目の当たりにし、文化を守りながら発展していくことの難しさについて考えさせられた。

ストリートチルドレンとの交流では、貧困や家庭環境といった要因が、子どもたちの将来に大きな影響を与えている現状を強く感じた。子どもたちは明るく接してくれたが、その背景にある困難を知ることで、社会の中で弱い立場に置かれた人々に目を向ける姿勢の重要性を学んだ。

フリースクールでの活動を通して、教育は知識を一方的に教えるものではなく、相手の背景や理解度を尊重しながら共に学んでいくものだと実感した。文化や生活環境が異なる中では、自分の価値観をそのまま当てはめるのではなく、相手を理解しようとする姿勢が何より重要であると学んだ。

今回の経験を今後の学修及びキャリアパスの中でどのように活かしていくか

今後の学修においては、社会課題や国際問題を、「それが人々の生活や教育にどのような影響を及ぼしているのか」という視点から捉えていきたい。講義や文献を通じた学びにおいても、現地で見聞きした具体的な事例と結びつけながら理解を深めることで、より実践的な学修につなげていきたいと考えている。また、フリースクールでの教育支援活動を通じて、教育の重要性と同時に、その難しさを実感した。今後は、教育や人材育成、国際協力といった分野に関心を持ち続け、教育が社会課題の解決にどのように貢献できるのかを、自分自身の専門分野の学修と関連づけて考えていきたい。

キャリアパスにおいては、本事業で培った異文化理解力、状況に応じて計画を修正する柔軟性、人と直接関わりながら課題を捉える姿勢を強みとして生かしたい。現地でのトラブルに対し、現実的な目標を再設定しながら行動した経験は、将来どのような職業に就く場合でも必要とされる力であると感じている。今後は、国内外を問わず多様な背景を持つ人々と関わる仕事に携わり、「一つの価値観で判断しない姿勢」と「相手の立場に立って考える視点」を大切にしながら、社会に貢献していきたい。

この事業での渡航を考えている学生へのアドバイス

最も伝えたいのは、お金に関する確認を徹底して行ってほしいということである。私自身、初めての海外渡航であり、かつ単独で現地の相手と交渉を行う中で、金銭面の確認不足が原因となるトラブルを経験した。具体的には、事前の交渉では合意していた金額が実際には交通費のみを指しており、現地で追加のガソリン代を請求された。ガソリン代込みの金額であったはずだが、違ったのだ。私はその費用を用意していなかったため、当初予定していた移動ができず、計画の大幅な変更を余儀なくされた。費用について理解しているつもりでも、「これで大丈夫だろう」と一度の確認で済ませるのでは不十分であり、二重、三重に確認する姿勢が不可欠であると痛感した。また、余裕を持った資金計画を立て、想定外の出費にも対応できる準備をしておくことで、現地での不安やストレスを大きく軽減できると感じた。本事業は、大きな学びと成長の機会を与えてくれる一方で、その土台となるのは生活面の安定である。準備段階での丁寧な確認と慎重さが、渡航中の経験の質を大きく左右することを、ぜひ意識してほしい。

計画全体にかかった費用(自己負担分も含めて、日本円で記載すること。)

渡航費(往復)	78,560円
海外旅行保険	4,250円
学費(教科書代や大学等プログラム授業料等)	84,500円
宿泊費	65,100円
光熱費	0円
食費	27,500円
その他	26,700円
合計	286,610円